玉島市民交流センター 七夕プレゼンツ シネジャズ

映画音楽をJAZZる

byフィリップ・ストレンジ&フレンズ

湊ホールにおけるコンサート時のアンケートによりますと、ご希望の多いのが、映画音楽・ジャズ
ご要望に応えて映画音楽の名曲を実力派プレーヤーが素晴らしい演奏をお届けします

Shoko

唐口 一之

フィリップ・ストレンジ

萬 恭隆

齋藤 洋平

2019
7/7日 15:00開演〔14:30開場〕

会場 **玉島市民交流センター湊ホール**
倉敷市玉島阿賀崎1-10-1 ☎086-526-1400(玉島文化センターバス停徒歩5分)
※駐車場に限りがありますので公共交通機関のご利用、乗りあわせでお願いします。
※未就学児の方は親子室をご利用ください(要予約、チケット必要)

演奏曲目
- ムーンリバー「ティファニーで朝食を」
- アズ・タイム・ゴーズ・バイ「カサブランカ」
- サマータイム「ポギーとベス」
- エンターテイナー「ザ・スティング」
- 星に願いを「ピノキオ」
- オン・グリーン・ドルフィン・ストリート「大地は怒る」
- マイ・フェイバリット・シング「サウンド・オブ・ミュージック」
- オーバーザレインボー「オズの魔法使い」他 (演奏曲目は変更する場合があります。予めご了承ください。)

入場料
一　　般(前売) 2,000円
大学生以下(前売) 1,000円
(当日は各500円増)
全席自由

主催・お問い合わせ・チケット販売／玉島市民交流センター TEL.086-526-1400
倉敷市玉島阿賀崎1-10-1
〔チケットの取り置きは住所・氏名・電話番号・チケット区分・枚数を記入してFaxにて受付します。Fax086-526-1407〕

チケット販売／アルスくらしきチケットセンター ☎086-434-0010 インディスク(天満屋倉敷店4階) ☎086-422-1457
岡山シンフォニーホールチケットセンター☎086-234-2010　ぎんざや☎086-222-3244

後　　援／倉敷市・山陽新聞社・FMくらしき・玉島テレビ放送・倉敷音楽協会・玉島文化協会・玉島商工会議所
玉島信用金庫・玉島おかみさん会

プロフィール

フィリップ・ストレンジ（ピアノ）

40年間、ジャズピアニスト、作曲家、作詞家、そして大学教授として活躍。
ジョー・ヘンダーソン、ルー・タバキン、デーブ・ホーランド、ピーター・アースキン、マーク・ジョンソン、ジェームス・ムーディー、ケビン・マホガニー、グレン・ミラー・オーケストラ等と、アメリカ、ヨーロッパ、日本で共演し、又50枚のCDに Featured Artist、またはGuest Artist として参加。2013年New TruthRecords から Phillip Strange Trio CD『Dreamscapes』をリリースするが、そのメンバーはピーター・アースキン（ウェザー・リポート、ダイアナ・クラールのドラマー）、デレク・オールズ（ブラッド・メルドーのベーシスト）である。又、日本とアメリカでの数々のジャズフェスティバルに出演する。2014 年京都大学教授、岡田暁生氏と共にベストセラー本『すごいジャズには理由がある 音楽学者とジャズピアニストの対話』を出版。
1999年に奨学金給費特別研究員としてマイアミ大学に招かれ、2003 年には博士号が与えられる。博士号研究員としてマイアミ大学に在籍している間には、ダウンビート誌より、"Best Instrumental Jazz Soloist"（2003、2002）、"Best Jazz OriginalComposition"（2002）、"Best Jazz Instrumental Group"（2001）等、数々の賞を受賞。Phillip Strange は、演奏だけでなくジャズ・ミュージシャン育成にも才能を発揮し、2005 年にはマイアミ大学で教えていた生徒も"Best Instrumental Jazz Soloist"を受賞する。又、2008 年と2011 年浅草ジャズコンテストでグランプリを受賞したヴォーカリストも生徒。
Phillip Strange は、修士号はクラシックピアノ演奏、学士号は音楽教育で取得しており、クラシックピアノのリサイタルやオーケストラとの共演の経験も数多くある。

Shoko 奥村 松子（ジャズシンガー）

東京都出身、岡山市在住。
14歳でシンガーソングライターを目指す。18歳から都内のライブハウス出演、CMソング録音など活動するが、米国歌手「サラ・ヴォーン」の歌声に感銘を受け、ジャズヴォーカルに開眼する。結婚を機に岡山に移り、ホテルでの演奏でキャリアを開始。
山口県で開催された米国ピアニスト"バリー・ハリス"のワークショップに連続参加、音楽の方向性を確立する。
2005年神戸ジャズヴォーカルクィーンコンテストでグランプリを受賞。副賞のシアトル「JazzAlley」出演を成功させ、ピアニスト"ラリー・フラー"との共演で貴重な経験を積む。
2008年8月3日リーダーアルバム『Sing Swing Lips』を全国発売。
2012年6月20日2ndアルバム『So Many Smiles～Jazzに恋して』T&Kエンタテインメント・日本コロムビアより全国発売。2ndアルバム制作の際、米国ピアニストの"フィリップ・ストレンジ"から音楽的アプローチ、ヴォーカルアレンジ、アルバム制作手法などを学ぶ。
東京・岡山でジャズヴォーカルの指導、イベントプロデュースなど、後進の指導にも余念がない。メンタル面にも興味を持ち、NLP（神経言語プログラミング）、コミュニケーション、瞑想など学び、ステージでのパフォーマンスや後進の指導にも活かしている。

唐口 一之（トランペット）

1954 年広島県生まれ。中学生の頃ブラスバンド部で、トランペットを始める。
高校進学後、地元の社会人バンドで、ジャズを体験する。
関西学院大学を卒業する頃から、関西のジャズクラブを中心に演奏を始める。
宮本直介、豊田晃、市川修、金子敏男等のバンドでセッションを重ねる。
1981年渡米、ミッキー・ローカー、ハンク・ジョーンズ、レイ・ブラウン、オテロ・モリノー、ミルト・ジャクソン等と共演。
現在は、自身のレギュラー・カルテット（岩佐康彦・西川悟志・北岡進）の他、宮哲之、竹下清志、角田浩、河村英樹等と精力的に演奏活動を行っている。
第2回（1992年度）中山正治ジャズ大賞受賞。
2012年、初リーダーアルバム『I Won't Dance』発売。

齋藤 洋平（ドラム）

島根県出身。
京都アンミュージックスクールにてＤｒｕｍｓを池長一美氏、坂東等氏に師事、jazzアンサンブルを故村上由美子氏、石橋敬一氏に師事、Ｃｏｎｇａを村田康夫氏に師事。
同志社サードハードオーケストラに参加、山野ビッグバンドジャズコンテストに出場しスイングジャーナル賞を受賞。藤井貞泰氏に出会い御指導頂き共演もする。
2010年日本人として初めて米国ニューオリンズで開催されたフレンチクウォーターフェスティバルに出演。
現在フィリップストレンジトリオ、横尾BB、MYMトリオ、トーティーシェル、篠崎雅史、BONEOLOGY、西村ゆかりカルテット等のバンドで活動。

萬 恭隆（ベース）

1979年2月1日京都生まれ。
大阪音楽大学短期大学部ジャズ科卒。
ジャズを木村知之氏、クラシックを坂倉健氏に師事する。
ブルースマンの父の影響を受け少年時代からギターを演奏し、ブルース、ロック、ファンク等のバンドで活動する。のちにジャズに傾倒し、アコースティック・ベースに転向する。
大阪音楽大学在学中からジャズシーンでの演奏活動を始め、全国のミュージシャンと共演を重ねる。
現在はジャズの枠にとどまらず様々なクリエイティブなシーンで活動中。